

## 実況！鳥取方式！！

去る3月22日（日）、鳥取市内を流れる千代川河川敷を「鳥取方式」で芝生化する事業が行われました。

今回の取り組みは、千代川が増水した場合の土砂の流出を食い止め、維持管理を効率よく行える環境づくりの一環として、鳥取市が主催となって実施した事業です。当日はサポートネットワークや一般の市民の皆様も一緒になって、総勢130名の参加者の手でポッド苗の植え付けが行われました。

今後サポートネットワークでは、毎月、苗の発育状況を写真で記録し、千代川の河川敷が緑豊かな芝生の広場となっていく様子を、会員の皆様にお伝えしていきます。



3月 沢山の方々に集まっていただき、みんなで植えました。



4月 植えた苗にはまだ目立った動きは見られません。



5月 ランナーがぐんぐん伸び始めました。これからが楽しみです。



### 第5回「鳥取方式」の芝生化アカデミー開催日決定！

2015年10月11日 於鳥取市 （詳細は決定し次第公式HP等でお知らせします）

# 会員紹介コーナー

## 鳥取方式®との出会い(後編)

Club Green 理事長 丸岡 樹善

あれから6年。

今では敦賀市内の保育園・幼稚園や一般家庭、市内だけでなく近隣市街でのサポート、と芝生化された場所は18カ所を超えました。本当に少しずつ地道な活動ですが、芝の良さを少しでも知って欲しくて、仲間のみならず活動を続けています。ここ敦賀はまだまだ「芝」への理解が難しく、小学校や中学校といった大きなグラウンド、敷地への芝生化は否定されています。でも私たちクラブメンバーには信念があります。

「いいものは良い」という想い。一年一年少しずつでも「前へ」進みたいなと思っています。いつもニールさんに言われるんです「無理しないでゆっくりと」と。

青年会議所からスタートした芝生化活動は、ボランティアクラブ「Club Green」へ変わり、お蔭様で昨年度、NPOとして承認を頂き活動しております。今ではメンバーも50名を超え、様々な人たちがこの活動に賛同頂き共に活動しています。



いつか・・・ニールさんの母国、NZのように・・・みどり多き街になればと・・・  
子供たちを支える環境、スポーツを支える環境が私たちの理想になればと・・・  
大きな「夢」をもち、無理せず小さな一歩を毎日続けて、これからも活動していきたいと思っています。

この活動に出会ったこと、これまで支えて頂いたニールさんはじめ中野先生、池田さん、グリーンスポーツ鳥取の皆さん、鳥取青年会議所の皆さん、サポートネットワークの皆さん、この活動を通じて関係頂いている出会ったすべての皆様と地元クラブメンバーに心から感謝し、この場を借りてお礼申し上げ終わりとさせていただきます。皆さんとの出会いに心から深く感謝とお礼をいたします。いつもありがとうございます！



投稿記事  
募集中！

あなたの芝生への「熱い想い」、ぜひ語ってください！詳しくは「お問い合わせ先」まで。

## 芝生 Q & A

鳥取方式の芝生化全国サポートネットワーク会員の交流掲示板に投稿された質問と回答をご紹介します。今回は、雨の多い季節における芝生管理についての質問をご紹介します。

**Q1** 雨の時に芝刈りをしてはいけないのはなぜですか。  
朝露で濡れているような時も芝刈りしない方が良いでしょう。

**A1** 濡れていると刈りにくいからです。刈りカスが機械にくっついて性能がだんだん悪くなります。  
朝露程度はたいした問題ではありませんが、毎日のように雨が振り、週1～2回の芝刈りができなくて、悩んでいる人もいでしょう。芝刈りの原則は刈る前の長さの3分の1以下を刈り取ることです。つまり芝生の高さを4cmに保つ場合は6cmになったらその3分の1の2cmを刈り取るということです。芝は基本的には上の半分が緑の葉っぱで下の半分が茶色の茎です。雨で芝刈りが出来ない日が続いて、8cmぐらい伸びた時に一気に4cmまで刈ると硬くて、茶色の茎だけが残り、芝生の状態が悪くなります。

そのような時は、芝刈り間隔を短くして、刈り高を55mmにして一度芝刈りをします。そして、3日程後に今度は刈り高を45mmにして刈ります。さらにその3日後芝生をいつもの40mmに刈れば、常に良い状態の芝生を利用者に提供することができます。



## 2009年鳥取久松公園の 芝生化(後編)

「久松公園の芝生化」の翌年、鳥取JCの事業「につぼん芝生化大作戦」にて「鳥取方式の芝生化全国サポートネットワーク」という長い名前の任意団体を立ち上げることとなりました。そこまでは良かったのですが、当時の鳥取県の担当課のK課長と鳥取JCのT委員長から「水野さん会長になってくださいな・・・」との依頼がありました。一番苦手なことが「断ること」である私は案の定断ることもできず、見事会長に就任してしまったのです。



さらに追い打ちをかけるように、立ち上げ会にて名誉会長になっていただいた、日本サッカー協会の川淵キャプテンに「水野君、この会の会長は単年度制ではだめだよ」と言われ、「はい、もちろんです。ライフワークとして・・・」。この「はい、もちろんです」が決定打となり5年たった今も「芝生人」としての毎日を送っています。これからもよろしくお願ひします。

鳥取青年会議所 OB  
鳥取方式®の芝生化全国サポートネットワーク  
会長 水野 由久

# ガイナール REPORT

鳥取県全域をホームタウンとし、2015年度、『強小七年 奮迅』スローガンの元、J3で地域と共に全力で戦うガイナール鳥取!!

クラブスピリッツでもある『スポーツを通したまちづくり、人づくり』活動の一環として、県民の皆様と心を通わせ感動を共有して頂くことを目的にホームタウン活動を行っています。

このコーナーでは、このホームタウン活動の中からいくつかの活動をご紹介します!!

1つ目は、『復活!公園遊び』です。活動のきっかけは、外遊びしなくなった子供たち、そのため、遊びを通して人間関係を築くことが苦手になった子どもたちを笑顔にしたいという想いでスタートしました。ガイナールの選手やスタッフが「ガキ大将のお兄ちゃん」となり、昔懐かしい遊びや身体を使った様々な遊びを通して、子どもたちの心と身体の健やかな成長を目指して活動しています。「いつ来てもいつ帰っても良い」「誰が来ても仲間に入れる」という“公園”の特性を活かした、“準備いらず片づけいらず”がポリシーのお手軽プロ



グラムは、普段の生活でも子どもたちに楽しんでもらえる遊びばかりです。

スポーツの本質は「遊び」です。「公園遊び」を通じて、子どもたちにスポーツの楽しさを知ってもらい、外で遊ぶこと、仲間と楽しく過ごすことの大切さを経験してほしいという思いで今後も活動の輪を広げていきます。





# 鳥取方式®の芝生 維持管理カレンダー

ティフトンの芝生(冬シバを9月下旬にオーバーシーディングした場合)

	5 月		6 月		7 月		8 月	
	芝刈り	施肥*	芝刈り	施肥*	芝刈り	施肥*	芝刈り	施肥*
第1週								
第2週	4 回	1 回	4 回	1 回	4 回	1 回	4 回	1 回
第3週	(3~4cm)	(20 kg)	(3~4cm)	(30 kg)	(3~4cm)	(30 kg)	(3~4cm)	(30 kg)
第4週								

※1 施肥は 1,000 m<sup>2</sup>あたりの標準散布量(14-14-14%化成肥料)

芝生面積に対して園児や利用者が多い場合は肥料を 30%~50%増にしてください。

~管理のポイント~

## 【冬シバからティフトンへの移行期】

昼の最高気温が 20℃を超える時期になると冬シバの生育は急激に活発になるので4月下旬から 5 月以後は週 1 回以上の芝刈りを行ってください。降雨や朝露で湿っている場合でも、回収せずに刈り落してもよいから刈り遅れしないように芝刈りを行い、地際まで太陽光が届くようにしてください。冬シバを刈らずに長いままに放置しておくと、地表で待機している夏シバ(ティフトン)の萌芽が抑制され、冬シバから夏シバへの移行(トランジション)が出来なくなり、冬シバの生長終期(6月下旬~梅雨明け)にティフトンが消滅する場合があります。

冬シバの密度が高く、生育も旺盛でティフトンを圧倒する恐れがある場合には、4 月・5 月の施肥量を減らし、週 1 回の芝刈りを励行してください。それでも冬シバの生長が活発な場合は低刈り(2.5cm 程度)あるいは週 2 回の芝刈りを行うなど冬シバを抑制するような管理をしてください。

5 月から梅雨期までの散水は 1 週間雨が降らない場合に軽く(2 mm程度:真夏の半分)撒いてください。6 月以後の盛夏期は原則として毎日(4 mm)散水してください。十分な散水設備がなく、手作業で散水する場合は最低限週 2 回以上の散水を行って下さい。施肥については、夏シバ(ティフトン)の生長が本格化する時期であるので、6 月~9 月は肥料を増量してティフトンの生長を促進してください。踏圧損傷した部分的な裸地の解消やふかふかしたターフの形成が可能となります。

なお、地面の凹凸や水溜りが発生している場合は、ティフトンの生長が盛んなこの時期にマサ土または細砂で目土散布(3 mm~5 mm)を実施してください。1 回の目土散布で不陸や水溜りが解消できない場合は、冬シバ播種直後に目土散布をしてください。



## 鳥取方式®の広まり (下編)

一番大事なのはこれからどうなるかです。1つの問題はまだまだ芝生化率が低い日本で現在のペースではすべての子供達や住民に芝生が行き渡るに必要な期間があまりにも長過ぎます。もう1つの問題は小中高学校では芝生化の定義です。現在は 300m<sup>2</sup>以上ならば一校としてカウントされます。つまり、中庭の半分程度でも OK。

我々が目指している校庭芝生化の定義ではこれはダメです。生徒全員が毎日、芝生の上で体育、遊び、スポーツなど問題なく行える校庭でなければいけないと思っているからです。校庭の 80%以上が芝生化されることが目安ではないか。

この問題を克服するには行政を始め、関わっているすべての人々の認識が変わらなければいけません。つまり、園庭、校庭、空き地、公園が芝生であるのは社会インフラの一環として整備すべきものだという認識が必要です。

でも諦めるのは早いです。この変革が始まったばかりです。関わっている全員が焦らず、慌てず、同じ目標を持って頑張る必要があります。

改革に必要な「気」は根気の「気」です。僕は諦めません。皆様はいかがでしょう。

### ■ お問い合わせ先 ■

鳥取方式の芝生化全国サポートネットワーク事務局 (鳥取県文化観光スポーツ局スポーツ課内)

電話: 0857-26-7919 E-mail: office@tottoristyle-shibafu.org

URL: <http://www.tottoristyle-shibafu.org/network/> ※「鳥取方式®」はNPO法人グリーンスポーツ鳥取の登録商標です